

5—3. 車内騒音・車内振動

■ランブルストリップス上を走行した時の車内騒音・車内振動■

車両がランブルストリップスを通過した時の警告効果を把握するために、車内騒音と車内振動を測定した。測定方法は、表 5-2 の通りである。比較のために、高視認性区画線、チャッターバー、何も設置されていない舗装路面を通常路面として同様に測定し、結果を図 5-3、5-4 に示す。



写真 5-7. 車内騒音（左）・車内振動（右）の測定状況

表 5-2. 車内騒音・車内振動の測定方法

	車内騒音	車内振動
測定機器	普通騒音計 (NL-22) リオン社製	汎用振動計 (VM-82) リオン社製
測定方法	助手席のヘッドレストに 集音マイクを固定 (写真 5-3 参照)	ハンドル軸上にピックアップを固定 (写真 5-3 参照)
測定間隔	0.1秒	0.1秒
集計方法	最大値	上位10個の平均値
測定車	日産ウィングロード4WD・1800cc 平成13年車 タイヤサイズ 185R14	
測定場所	苫小牧寒地試験道路	

ランブルストリップスの車内騒音の測定値は、ランブルストリップスの規格や走行速度により異なるが、通常路面に比べ、約 20dB 程度の大きな値が測定された。また、高視認性区画線、チャッターバーと比較しても、同程度またはそれ以上の値が測定された。既往の研究では、4dB 程度の差があれば、ドライバーは音の違いに気づくという知見があり、ランブルストリップスは、十分な注意喚起効果や車線逸脱の警告効果があると推察される。

車内振動の測定値は、車内騒音と同様に、通常路面によりも大きな測定値が記録され、高視認性区画線、チャッターバーと比較しても、同程度またはそれ以上の値が測定された。ランブルストリップスは、振動の面からも十分な注意喚起効果や車線逸脱の警告効果があると推察される。